発表 日:平成28年2月3日(水)

都道府県名:沖縄県

学 校 名:那覇市立小禄中学校

校 種:中学校

教 科·科目等名:保健体育科

# 平成27年度

# 国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業

研 究 協 議 会





## 平成27年度研究協議会資料

都道府県·	47	都道府県・	沖縄県	研究課題番号・校種名	2・中学校
指定都市番号		指定都市名		教科·領域名	保健体育

学習指導要領の指導状況及びこれまでの全国学力・学習状況調査結果から、学習 指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関す る実践研究

## 【体育分野】

運動を合理的に実践するため、運動の技能や知識を活用するなどの思考力・判断 力を育成するための指導や評価方法等の工夫改善についての研究

#### 研究課題

# 【保健分野】

個人生活における健康課題を把握し、その解決を目指して具体的に考え、判断 し、それらを表現する力の育成を目指して、以下の単元における「知識を活用する 学習活動を取り入れる指導方法の工夫」のための具体的な指導方法等の研究開発

- ・第1学年の「(1) 心身の機能の発達と心の健康」
- ・第2学年の「(3) 傷害の防止」・第3学年の「(4) 健康な生活と疾病の予防」

学校名 (生徒数)

神縄県 那覇市立 小禄中学校(783人)

所在地(電話番号) 〒901-0153 沖縄県那覇市宇栄原 2-23-1(TEL:098-917-3410)

研究内容等掲載ウェブサイトURL http://cms.nahaken-okn.ed.jp/oroku-jh/

# 研究のキーワード

○思考力・判断力等の育成

- ○言語活動の充実 ○学び合い
- ○フォームチェックシート ○ワークシート

# 研究成果のポイント

- ○【体育分野】運動課題の解決を図る場面において、フォームチェックシートを取り入れるこ とで、解決する運動のポイントが明確となり、仲間と運動課題について指摘し合う、互いのよ さを認め合うなどのコミュニケーションを図る活動が充実した。
- ○【保健分野】よりよい課題解決の方法を考えるための手立てとして、仲間と学び合う学習の 場面では、まず自己の考えを持たせてから、グループの話し合いを行い、よりよい考えをまと めることとした。さらに新たな知識を獲得する活動を加え、自分の考えを吟味していく活動を 行った。生徒の最終的な考えは、初めの考えと比べて理由や根拠が新たに追加されるなど深ま っていたり、広がっていたりしていて、具体的に考え、判断したことが推察できる。
- ○【体育分野】【保健分野】生徒が思考・判断したことなどの活動を評価する資料としてワーク シートの工夫を行った。考えたことを伝え合う場面では付箋等を使い、考えたことの過程が分 かるワークシートにすることで評価の場面だけでなく、学習者が活動を振り返ることができた。

#### 1 研究主題等

(1) 研究主題

心と体を一体としてとらえる保健体育学習の充実

(2) 研究主題設定の理由

沖縄県はかつて長寿県を誇っていた。しかし、2010年には男性の平均寿命が全国30位、1位を維持し続けてきた女性の平均寿命も全国3位まで順位を下げ、「330ショック」という言葉が生まれるほど、健康に対して沖縄県全体が危機意識を持つきっかけとなった。本県の児童生徒においては、体育授業以外に運動をしない割合が全国と比較して高いことが「平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査(文部科学省)」で明らかとなった。屋外で仲間と遊ぶことから、屋内で、個人で過ごす遊びへと変質し、遊びや運動における三間「時間・空間・仲間」の獲得機会が少ないことが原因の一つと推察される。運動における三間の獲得を保障し、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成や健康の保持増進のための実践力を育成することは、生涯を通じた健康づくりを担う保健体育の授業づくりにおいて、重要であると考える。そこで本研究では、生徒の心身ともに健全な発達を促すためには心と体を一体としてとらえた指導が重要であることから、研究のテーマを「心と体を一体としてとらえる保健体育学習の充実」とし、技能や知識を活用する学習活動を取り入れ思考力・判断力等を育成することで、一層理解が深まり、学習に対する意欲が高まるであろうと考えた。

## (3) 研究体制

学校長・教頭・研究主任・養護教諭・保健体育科を研究推進チームとし、教材研究、授業研究、評価の方法について研究を進めた。また他の機関と連携を図り指導や助言をいただき、多くの先生方と継続して保健体育学習の研究ができるようにした。

- ・那覇地区中学校体育研究会の会議にて本校体育学習の単元計画検討会(4回)
- ・大学教員と連携し、理論研究や研究実践の進め方についての学習会(3回)
- ・沖縄県教育庁保健体育課と連携し、公開授業、指導案の検討(3回)

# (4) 1年間の主な取組

4月27日理論研究(講師:大学教授)

7月 8日 理論研究 那覇地区中学校体育研究会共催(講師:大学教員)

平 | 7月27日 研修指定校視察 北海道教育大学附属札幌中学校 平成27年度研究大会参観

成 8月14日 理論研究 那覇地区中学校体育研究会共催(講師:前本研究会会長)

27 10月 8日 校内研究授業にて保健分野の公開授業

年 | 10 月 14 日 単元計画検討会 (器械・保健) 那覇地区中学校体育研究会共催

(講師:沖縄県中学校体育連盟体操専門部長)

11月27日 本校研究協議会にて保健分野、体育分野の公開授業

【森調査官・高橋調査官訪問】

#### 2 研究内容及び具体的な研究活動

# (1) 研究内容

度

保健体育科における思考・判断の指導内容は、体育分野の第1学年及び第2学年では「課題に応じた運動の取り組み方の工夫」、第3学年では「自己の課題に応じた運動の取り組み方の工夫」であり、保健分野では、知識の習得を重視した上で、知識を活用する学習活動を積極的に行う等の指導方法の工夫である。本研究では、思考力・判断力等の育成に向けて、他者との学び合いを通して言語活動の充実を図る。

## (2) 具体的な研究活動

#### 【体育分野】

体育分野では、学習者同士が互いの演技のよさを認め合う、互いの運動課題について指摘し合う、 互いに教え合うなどのコミュニケーションを図る学習活動を充実する。その手立てを以下の2点と した。

- ①運動技能のポイントを明確にしたフォームチェックシートの作成
- ②思考・判断等の学習過程がわかるワークシートの工夫

体育分野の学習では、運動領域によって得意な生徒、不得意な生徒が授業に臨んでいる。学び合いの場面では、得意な生徒が不得意な生徒に対して教えたり、グループ活動においてもその領域の部活動生徒や運動経験者が中心となって発言をすることが多く、その逆は授業内ではあまりない。全ての生徒がお互いのよい演技を認め合う、お互いの運動課題について指摘し合う、お互いに教え合うためには指導者と生徒が運動技能のポイントについて共通に確認することが重要である。フォームチェックシートを作成して運動技能のポイントを明確にして、課題解決に向けた学び合いをすることで言語活動の充実が図られると考えた。

## 【保健分野】

保健分野では、個人生活における健康・安全に関する課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどの活動や、健康に関する概念や原則を基に、自分たちの生活や事例と比較したり、関係を見付けたりしたことについて、筋道を立てて説明する活動を充実する。その手立てを以下の2点とした。

- ①学習した知識を活用して課題解決に向けて取り組むことができる教材等の工夫
- ②思考・判断等の過程がわかるワークシートの工夫

保健分野の学習では、教師が話し合う学習場面を設定するだけでは、生徒はただ意見の出し合いになることが見られ、学び合いとは言いがたいことがしばしばある。学習した知識を活用してよりよい課題解決の方法について考えることができる教材等の工夫が求められる。その教材等では課題について自己の考えを持って他者との学び合いに臨むことが重要である。他者の多様な考えに触れることで、それまでの自己の見方や考え方が揺さぶられる。そして話し合う過程において課題に対する見方や考え方を広げたり、深めたりしながらよりよい課題解決の方法を目指す取組で言語活動の充実が図れると考えた。

#### 3 研究の成果と課題

#### (1) 成果

○【体育分野】運動課題の解決を図る場面において、フォームチェックシートを取り入れることで、解決する運動のポイントが明確となり、仲間と運動課題について指摘し合う、互いのよい演技を認め合うなどのコミュニケーションを図る活動が充実した。

第2学年陸上競技「ハードル走」では、学習した知識や運動のポイントをフォームチェックシートにまとめて、課題の解決に向けた学習活動を行った。学習課題を「3歩のインターバルでスムーズなハードリングを目指す」として、自分にあったインターバルのコースで仲間と運動課題について指摘し合い、その指摘を基に練習を選んで実践する活動を行った。

第1学年器械運動「マット運動」では、学習した知識や技のポイントをフォームチェックシートにまとめて、基本的な技を組み合わせながら滑らかに行う学習活動を行った。技がよりよくできることを目指し、仲間と学習する場面で仲間のよい動きを指摘し合った。

○【保健分野】よりよい課題解決の方法を考えるための指導方法として、仲間と学び合う学習 の場面では、自己の考えを持って意見交流に臨ませ、グループの意見としてまとめる。そして 新たな知識を獲得してさらに自分の考えを修正していく活動を行った。生徒の最終的な考え は、初めの考えと比べて理由や根拠が新たに追加されるなど深まっていたり、考えが変化して いたりしていて、具体的に考え、判断したことが推察できる。

第2学年傷害の防止「応急手当」では、前時までに学習した知識を活用して、事例と学習したことを比較して考え、筋道を立てて説明する学習活動を行った。「できる手当はなかったか」という発問に対して、自己の考えを持って意見交流に臨ませ、グループで考えを広げたり、深めたりしてグループで意見をまとめた。そして「死戦期呼吸」という新たな知識を学び、考えをさらに修正して、筋道を立てて説明する活動を行うことができた。

○【体育分野】【保健分野】生徒が思考したこと、判断したことなどの活動を評価する資料として、ワークシートの工夫が求められる。体育分野では、互いの良さや課題について指摘し合う活動の場面では、付箋等を利用し、素早く考えたことを伝え、考えを広げたり深めたりすることができて有効であった。保健分野では、初めの考えから、グループで考えたこと、最終的に自分で考えたことなどの過程がわかるワークシートにすることで評価の場面だけでなく、学習者が活動を振り返ることができた。

#### (2) 課題

# ○【体育分野】フォームチェックシートについて

フォームチェックシートは、まだまだ教材研究が必要であり、生徒が言葉からイメージに結びつくような普段の指導方法が求められる。また、個人種目では有効に活用することができたが、集団で行うダンス、球技などの単元では活用が難しい。第1学年ダンス(創作ダンス)、第3学年ダンス(現代的なリズムのダンス)で作成して実践してみたが、教師が期待するような結果には結びつかなかった。

○【体育分野】グループ編成について

当初は言語活動を充実させようと、人間関係に配慮したグループ編成を行っていた。グループ編成については検討を重ねてきたが、今後は誰とでもコミュニケーションを図ることができる生徒の育成を目指して手立てを行う。

○【体育分野】【保健分野】指導方法やワークシートの工夫

運動の合理的な実践を目指して、「何を」、「どのように」活用させるのかなどの指導内容や方法について、3年間の指導計画を見通して検討する必要がある。保健分野においては学習した知識を活用する場面において、発問を工夫する必要がある。また、評価はワークシートの記述の状況で行ったが、生徒が具体的に思考・判断できるような手立てが必要である。

○【体育分野】【保健分野】評価について

考えたことや判断したことを、ワークシートに記述して表現する力には個人差があり、特に 手立てが必要な生徒に対しては、ワークシートだけで評価することなく、生徒が考えたりして いる状況などを踏まえて評価をすることが必要である。

#### (3)研究2年目へ向けての取組

来年度は、「心と体を一体としてとらえる」という研究主題により迫るため、体つくり運動と心の健康、水泳と応急手当等の指導の充実により、体育分野と保健分野との密接な関連をもたせる 指導方法等を工夫し、よりよい研究の成果に結び付けたい。